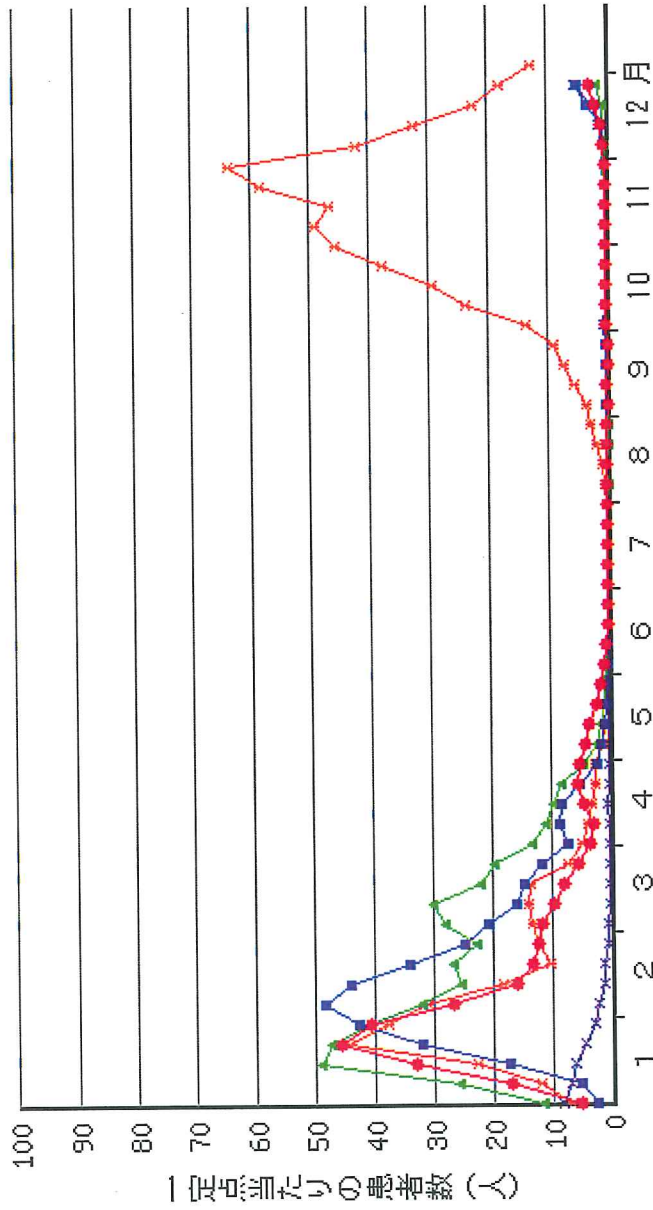


■インフルエンザ (福岡県全域)

- : 2013 年
- : 2012 年
- ▲: 2011 年
- ✧: 2010 年
- ✱: 2009 年

2013年 第52週 現在



平成 25 年 12 月 27 日

【照会先】健康局結核感染症課

感染症情報管理室長 中嶋 建介

課長 補佐 齋藤 智也

報道関係者 各位

インフルエンザの発生状況について (流行シーズン入り)

平成 25 年第 51 週(平成 25 年 12 月 16 日から平成 25 年 12 月 22 日まで)分のインフルエンザの発生状況を別紙のとおり取りまとめましたので、お知らせいたします。

なお、今回は、定点あたり報告数が流行開始の目安である 1.00 を上回り、流行シーズン入りしました(別添参照)。

平成 25 年第 52 週(平成 25 年 12 月 23 日から平成 25 年 12 月 29 日まで)分については、1 月 9 日(木)公表予定です。

照会先：厚生労働省健康局結核感染症課
電話：代表 03(5253)1111
夜間直通03(3595)2263
担当者：中 嶋（内線2389）
齋 藤（内線2376）

平成25年12月27日



=====
今年もインフルエンザが流行シーズン入り
定点あたり報告数が1.39に
=====



平成25年第51週（12月16日～12月22日）の感染症発生動向調査で、インフルエンザの定点あたり報告数が1.39（定点数/約5,000ヶ所、報告数/6,824）となりました。流行開始の日安としている1.00を上回ったことから、今年もインフルエンザが流行シーズンに入ったと考えられます。

■**平年並みの流行シーズン入り**

第51週での流行シーズン入りは、平年並みの時期の流行入りです。（昨年の流行入りは50週でした。）

■**すべての年齢の方に注意が必要**

季節性インフルエンザのウイルスには、A/H1N1 亜型（平成21年に流行した新型インフルエンザと同じもの）、A/H3N2 亜型（いわゆる香港型）、B型の3つの種類があり、いずれも流行の可能性があります。流行しやすい年齢層はウイルス型によって多少異なりますが、今年も、全ての年齢の方がインフルエンザに注意する必要があります。

インフルエンザの流行入りを機に、厚生労働省では以下の予防対策を改めて国民に周知してまいります。報道機関の皆様方にも周知への御協力をお願いいたします。

【**咳エチケット**】

インフルエンザは、インフルエンザにかかった人の咳、くしゃみ、つばなどの飛沫と共に放出されたウイルスを、鼻腔や気管など気道に吸入することによって感染します。インフルエンザが流行してきましたので、周囲の方々のためにも「咳エチケット」に心がけましょう。

※「咳エチケット」とは・・・

- 咳・くしゃみが出たら、他の人にうつさないためにマスクを着用する。マスクをもっていない場合は、ティッシュなどで口と鼻を押さえ、他の人から顔をそむけて1m以上離れる。
- 鼻汁・痰などを含んだティッシュはすぐゴミ箱に捨てる。
- 咳をしている人にマスクの着用をお願いする。

今年度の予防啓発ポスターでは、「**日本全国 みんなで予防 インフルエンザ!**」を合い言葉に**咳エチケット**と**手洗い**について啓発しています。

【**予防接種**】

インフルエンザワクチンの予防接種は、高齢者に接種した場合、発症をある程度おさえる効果や、重症化を予防する効果があるとされており、予防接種法上の定期接種の対象となっております。

なお、詳細につきましては、**厚生労働省のインフルエンザ対策ホームページ**をご覧ください。

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou01/index.html>

インフルエンザなどの感染症に関する**相談窓口**を開設していますので、ご活用ください。

電話番号/03-5299-3306

受付日時/9:00~17:00月曜日~金曜日（祝祭日12/29~1/3除く）

インフルエンザ流行レベルマップ

お知らせ 次回の更新は、1月17日(金)の予定です。

2014年 第01週 (12月30日～1月5日) 2014年1月9日現在

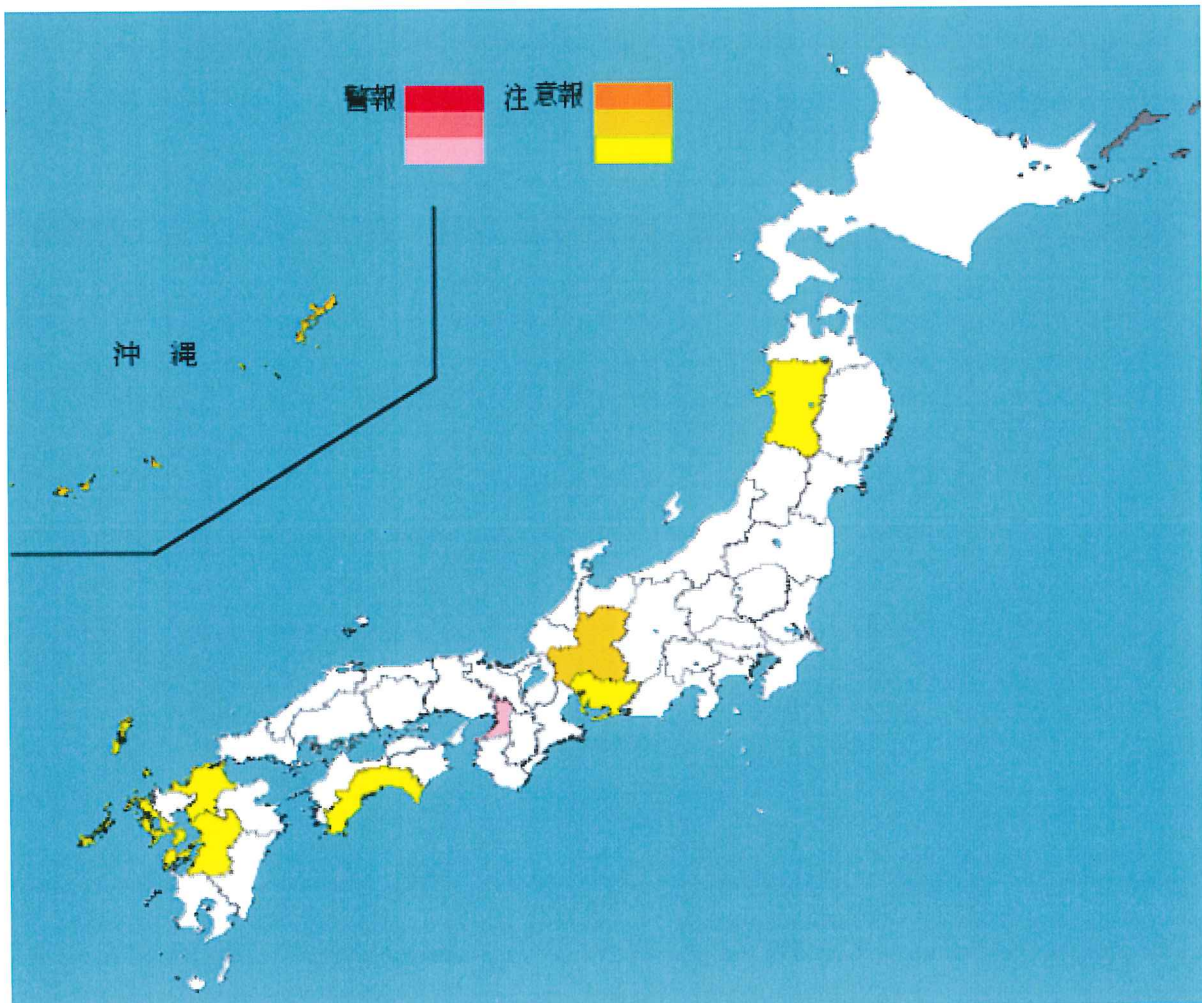
コメント▶ 2013/2014年シーズンのインフルエンザの定点当たり報告数は2013年第43週以降増加が続いている。2014年第1週の定点当たり報告数は2.16(患者報告数9,891)となった。都道府県別では沖縄県(13.10)、岐阜県(8.17)、高知県(6.50)、熊本県(4.88)、鹿児島県(4.22)、愛知県(4.07)、長崎県(3.87)、宮崎県(3.53)、大分県(3.42)、福岡県(3.25)、滋賀県(3.11)の順となっており、29府県で増加がみられた。

定点医療機関からの報告をもとに、定点以外を含む全国の医療機関をこの1週間に受診した患者数を推計すると約14万人(95%信頼区間:12万人～15万人)となり、20代、30代がそれぞれ約3万人、40代が約2万人、0～4歳、5～9歳、10～14歳、15～19歳、50代、60代、70歳以上がそれぞれ約1万人の順となっている。

全国の保健所地域で警報レベルを超えているのは1箇所(大阪府)、注意報レベルを超えている保健所地域は14箇所(岐阜県3、愛知県3、沖縄県2、秋田県1、大阪府1、高知県1、福岡県1、長崎県1、熊本県1)となった。

基幹定点からのインフルエンザ患者の入院報告数は162例であり、第52週(79例)より増加した。42都道府県から報告があり、年齢別では0歳(9例)、1～9歳(38例)、10代(10例)、20代(6例)、30代(7例)、40代(2例)、50代(7例)、60代(12例)、70代(32例)、80歳以上(39例)であった。

2013年第36～52週の17週間では、インフルエンザウイルスの検出は、AH3亜型(A香港型)の割合が最も多く、次いでAH1pdm09、B型の順となっている。詳細は国立感染症研究所感染症疫学センターホームページ(<http://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr-inf.html#graph>)を参照されたい。



詳細 CSV形式

インフルエンザ様疾患発生報告における施設数の推移

(平成25年9月～)

	報告週	報告期間	休校	学年閉鎖	学級閉鎖	施設数合計
第1報	第36週	H25.9.2 ~ H25.9.8	0	0	0	0
第2報	第37週	H25.9.9 ~ H25.9.15	0	0	0	0
第3報	第38週	H25.9.16 ~ H25.9.22	0	1	0	1
第4報	第39週	H25.9.23 ~ H25.9.29	0	0	0	0
第5報	第40週	H25.9.30 ~ H25.10.6	0	0	0	0
第6報	第41週	H25.10.7 ~ H25.10.13	0	0	3	3
第7報	第42週	H25.10.14 ~ H25.10.20	1	0	0	1
第8報	第43週	H25.10.21 ~ H25.10.27	0	0	5	5
第9報	第44週	H25.10.28 ~ H25.11.3	0	1	3	4
第10報	第45週	H25.11.4 ~ H25.11.10	0	1	1	2
第11報	第46週	H25.11.11 ~ H25.11.17	1	5	5	11
第12報	第47週	H25.11.18 ~ H25.11.24	0	7	21	28
第13報	第48週	H25.11.25 ~ H25.12.1	2	10	31	43
第14報	第49週	H25.12.2 ~ H25.12.8	1	19	50	70
第15報	第50週	H25.12.9 ~ H25.12.15	3	21	60	84
第16報	第51週	H25.12.16 ~ H25.12.22	2	30	81	113
第17報	第52週	H25.12.23 ~ H25.12.29				
第18報	第1週	H25.12.30 ~ H26.1.5				
第19報	第2週	H26.1.6 ~ H26.1.12				
第20報	第3週	H26.1.13 ~ H26.1.19				
第21報	第4週	H26.1.20 ~ H26.1.26				
第22報	第5週	H26.1.27 ~ H26.2.2				
第23報	第6週	H26.2.3 ~ H26.2.9				
第24報	第7週	H26.2.10 ~ H26.2.16				
第25報	第8週	H26.2.17 ~ H26.2.23				
第26報	第9週	H26.2.24 ~ H26.3.2				
第27報	第10週	H26.3.3 ~ H26.3.9				
第28報	第11週	H26.3.10 ~ H26.3.16				
第29報	第12週	H26.3.17 ~ H26.3.23				
第30報	第13週	H26.3.24 ~ H26.3.30				

2. 休業施設数施設別内訳(第16報)

合計: 113施設

	保育所	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	その他
施設数	4	6	82	18	2	1

インフルエンザによる入院患者の概況(51週)

(1)入院患者の届出数

期間	11月18日 ～11月24日	11月25日 ～12月1日	12月2日 ～12月8日	12月9日 ～12月15日	12月16日 ～12月22日	9月	10月	11月	12月				計※1
入院患者数※1	21	44	37	43	70	17	17	80	150				264
年齢別内訳	1歳未満	0	2	3	2	3	1	3	6	8			18
	1～4歳	3	12	6	8	9	4	3	18	23			48
	5～9歳	2	3	4	3	11	4	1	5	18			28
	10～14歳	3	1	1	1	2	1	1	6	4			12
	15～19歳	0	0	1	0	0	0	1	0	1			2
	20～29歳	1	1	1	1	1	0	1	2	3			6
	30～39歳	0	1	2	1	3	0	0	2	6			8
	40～49歳	2	4	0	4	2	0	0	7	6			13
	50～59歳	2	2	3	2	1	1	2	4	6			13
	60～69歳	0	6	4	2	6	1	1	7	12			21
	70～79歳	3	8	2	9	9	1	2	11	20			34
	80歳以上	5	4	10	10	23	4	2	12	43			61

(2)入院時の状況

期間	11月18日 ～11月24日	11月25日 ～12月1日	12月2日 ～12月8日	12月9日 ～12月15日	12月16日 ～12月22日	9月	10月	11月	12月				計※2
ICU入室	0	4	2	5	3	0	1	5	10				16
人工呼吸器の利用	0	2	1	2	3	0	2	3	6				11
頭部CT検査、頭部MRI検査、 脳波検査のいずれかの実施 (予定含む)	1	3	4	5	7	1	2	6	16				25
いずれにも該当せず	20	37	31	33	59	16	13	70	123				222
計※2 (一部重複あり)	21	46	38	45	72	17	18	84	155				274

(3)入院時の状況と年齢別内訳の累計

年齢	1歳未満	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計※2
ICU入室	2	1	1	0	0	0	0	2	2	1	3	4	16
人工呼吸器の利用	1	3	0	0	0	0	0	1	2	0	3	1	11
頭部CT検査、頭部MRI検査、 脳波検査のいずれかの実施 (予定含む)	1	6	3	0	0	0	0	1	1	3	2	8	25
いずれにも該当せず	16	39	24	12	2	6	8	10	11	17	28	49	222
計※2 (一部重複あり)	20	49	28	12	2	6	8	14	16	21	36	62	274

※1 基幹定点医療機関(約500カ所)からのインフルエンザによる入院患者の届出数
 ※2 平成25年9月2日以降に入院した各患者の累計数(入院日を登録)

世界におけるインフルエンザ流行状況（更新 25）

2013 年 12 月 20 日 WHO

要約

- 北米ではインフルエンザシーズンが始まりました。インフルエンザ A(H1N1)pdm09 が優勢でした。
- 北米以外の北半球は、南半球と同様に、インフルエンザの活動性は依然として低い水準でした。
- 熱帯地域におけるインフルエンザの活動性は、国によって異なりました。
- FluNet(12 月 19 日時点)によれば、第 48 週から第 49 週(11 月 24 日から 12 月 7 日)の間、89 の国・地域にある国のインフルエンザ・センターやその他の国のインフルエンザ研究施設からインフルエンザのサーベイランス・データが報告されました。WHO 世界インフルエンザサーベイランス及び対応システム(GISRS)の検査施設では、42,360 以上の検体を検査しました。インフルエンザが陽性となったのは 3,304 検体で、このうち 2,816 検体(85.3%)がインフルエンザ A 型で、487 検体(14.7%)がインフルエンザ B 型でした。亜型が解析されたインフルエンザ A 型ウイルスのうち、1,166(66.4%)がインフルエンザ A(H1N1)pdm09 で、591 検体(33.6%)がインフルエンザ A(H3N2)でした。解析されたインフルエンザ B 型ウイルスのうち、39 検体(70.9%)が山形系統で、16 検体(29.1%)がビクトリア系統でした。